

第5問

司法試験受験生であるXは、近所の豪邸であるY宅で飼われているドーベルマンに日頃から吠えられていたため、Yからいつも金持ちであることを自慢されていることもあわせて、ドーベルマンに不快な感情を抱いていた。Xは、平成21年5月10日午後5時すぎ、択一試験の出来が悪くイライラしながら帰っていたところ、その途中Y宅付近で、いつもにもましてドーベルマンにしつこく吠えられたため、イライラが爆発し「うるさいんだよ！」と近くに落ちていた石を犬に向かって投げつけた。

そのときYは、ドーベルマンのトリミングのため首輪をはずし、これからトリミングをする状況であったが、たまたまY宅にヤマト急便から宅配物が届いたため、ドーベルマンをそのままの状態にしたまま玄関に向かった。そのため、石を投げられ怒ったドーベルマンは、首輪をしていなかったことから、玄関の柵を飛び越えて、Xに向かってきた。

ドーベルマンに噛まれたら大変なことだと、必死に逃げていたXは500mほど逃げたところ、横幅約1,5メートルの細い路地にはいりこんだ。

すると前方に道の真ん中をゆっくりと歩行するYを発見し、このままでは、Yに激突しドーベルマンに噛まれてしまうと考えたXは、Yを突き飛ばしてでも逃げるしかないと考え、そのまま速度を緩めることなく走り、Yを斜め右前に突き飛ばし、そのまま逃走した。Yは、Xに突き飛ばされたため、顔面に加療2週間の擦過傷を負った。

Xの罪責を述べよ。